

令和7年度アウトリーチ型家庭教育支援研修

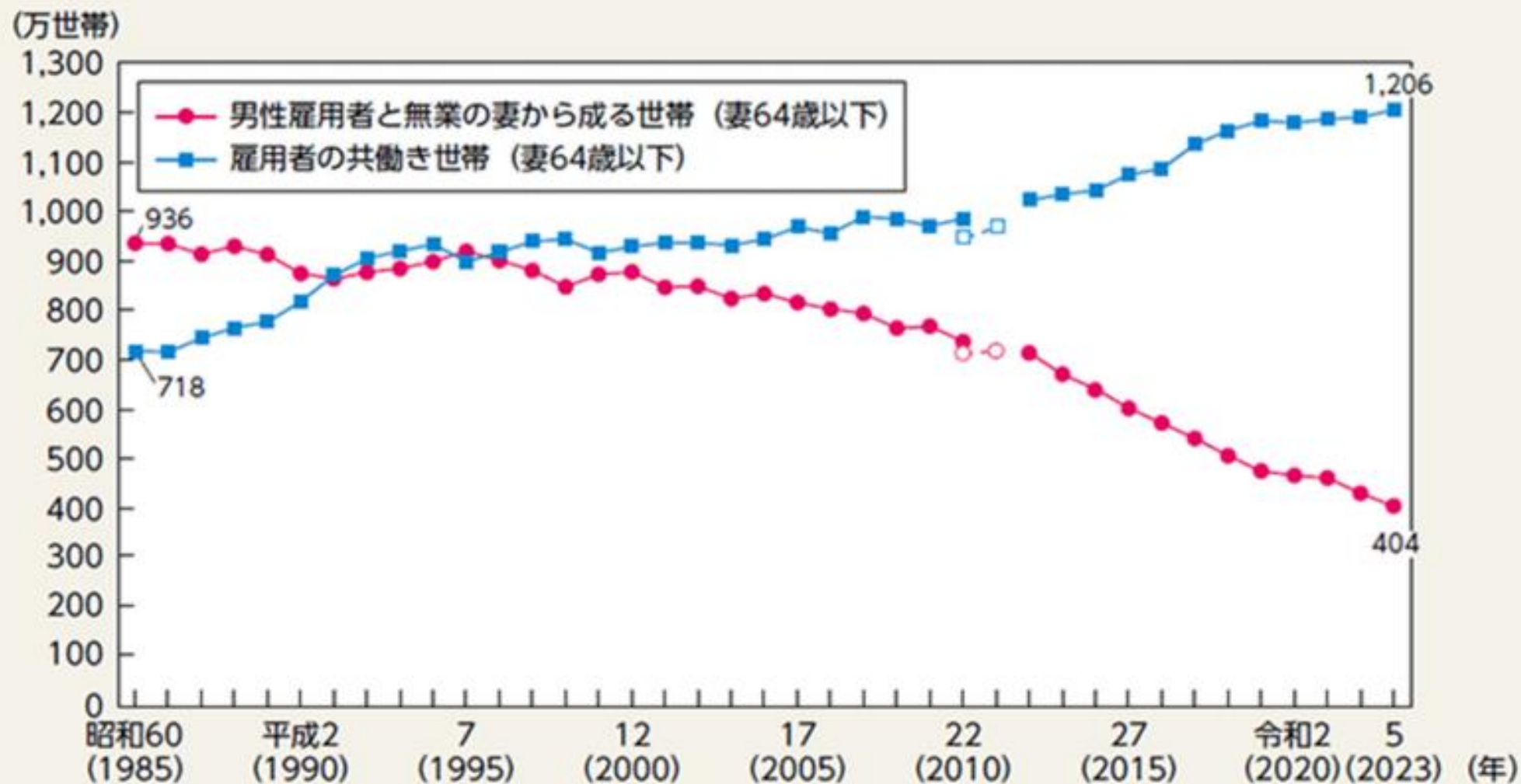
家庭教育支援の現状と課題

広島県立生涯学習センター



共働き世帯数の推移

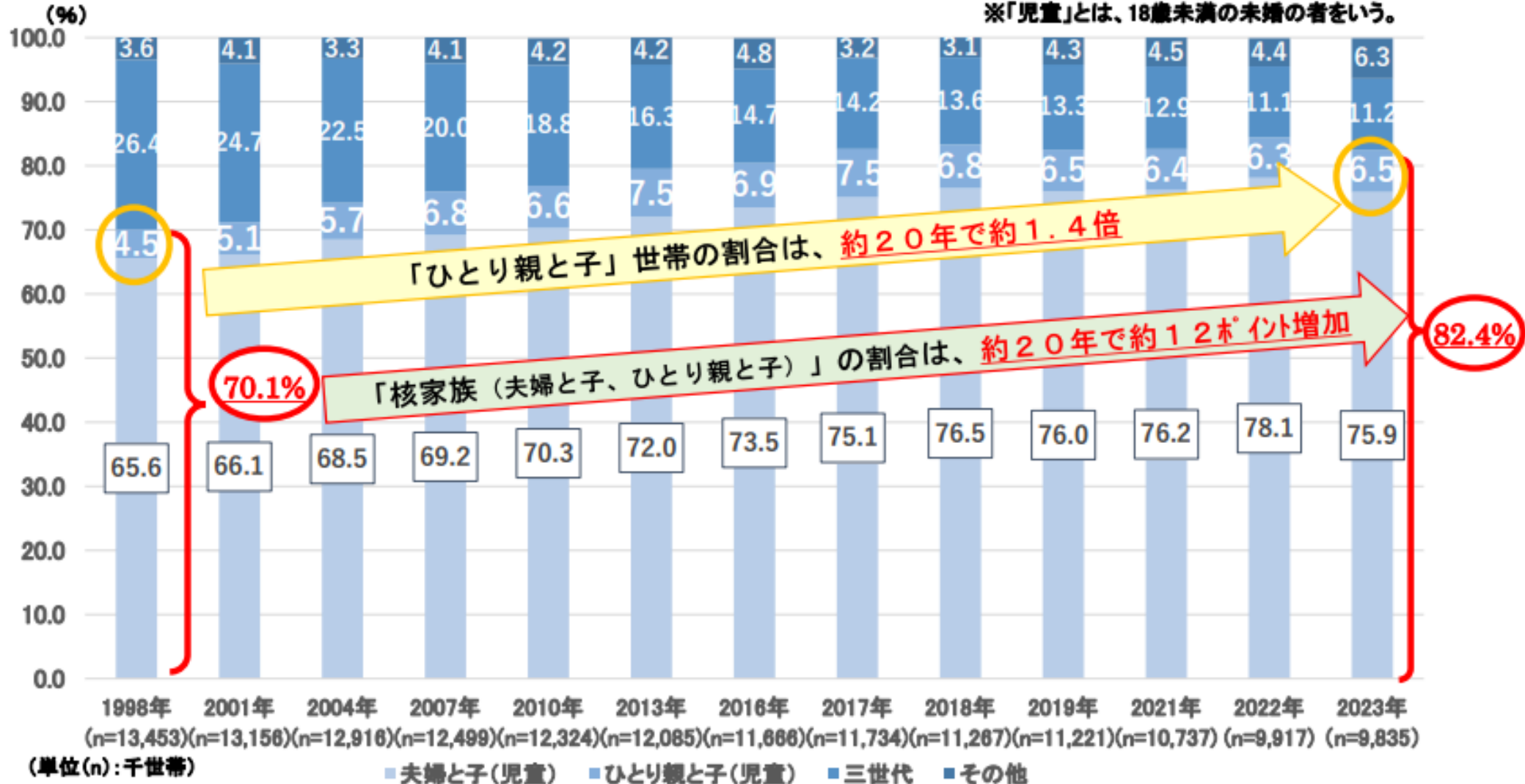
共働き世帯数は増加傾向（1,206万世帯（2023年））



児童のいる世帯の構成【世帯別構成】

「核家族（夫婦と子、ひとり親と子）」、「ひとり親と子」世帯（約63万世帯（2022年））の割合は増加傾向

※「児童」とは、18歳未満の未婚の者をいう。



家庭や子供の育ちに関する状況（まとめ）

- コロナ禍での家族や社会に対する意識の変化、「新しい生活様式」に対応した働き方の多様化、育児休業取得率の増加など、社会の変化への対応の必要性
- 世帯構造の変化、様々な実情の家庭の増加、地域のつながりの希薄化など、家庭環境が変化する中、保護者の子育て負担の増加、精神的・時間的に余裕のない家庭の増加、児童虐待等が懸念

等々



コロナ禍をはじめとする社会の変化に対応した家庭教育支援を推進することが必要。
特に、支援が必要な家庭に寄り添い届ける支援 （アウトリーチ型支援）が不可欠。

「こどもの居場所づくり」が求められる背景

- ・地域のつながりの希薄化・少子化の進展により、こども・若者同士が遊び、育ち、学び合う機会が減少
- ・共働き家庭やひとり親家庭の増加により、家庭における子育ての孤立化
- ・児童虐待等の厳しい環境で育つこども・若者は、居場所を持ちにくく、失いやすい



喫緊の課題や個別のニーズにきめ細かに対応した居場所をつくる



こどもの権利を守り、誰一人取り残さず、抜け落ちることのない支援

小・中学生の保護者を対象とした 家庭教育に関するアンケート調査

(令和4年／広島県立生涯学習センター)

子育てにおける相談相手

ア 配偶者・パートナー	80.6%
イ あなたや配偶者・パートナーの親	50.7%
ウ あなたや配偶者・パートナーの兄弟姉妹や親戚	20.2%
エ 子育てしている保護者仲間	55.2%
オ 子育て経験のある友人・知人	33.4%
カ 学校の先生	15.2%
キ 子育てや家庭教育に関する専門的知識を持っている人	7.3%
ク 行政などの公的な相談機関	3.5%
ケ インターネットなどの相談サイト	4.2%
コ その他	2.2%
サ 相談しない	2.9%
回答なし	0.4%

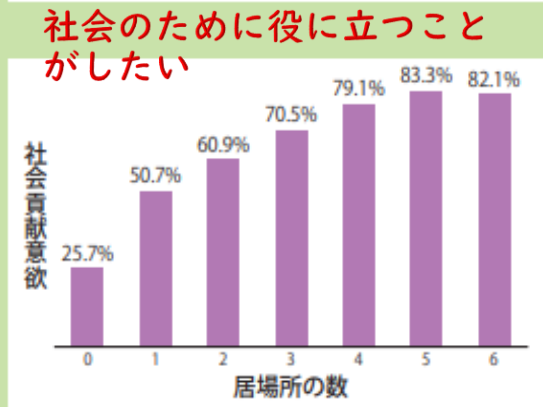
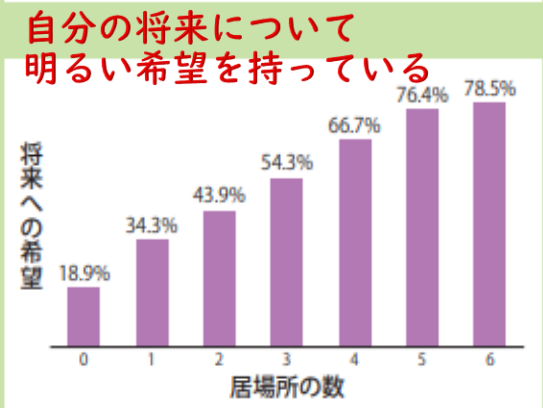
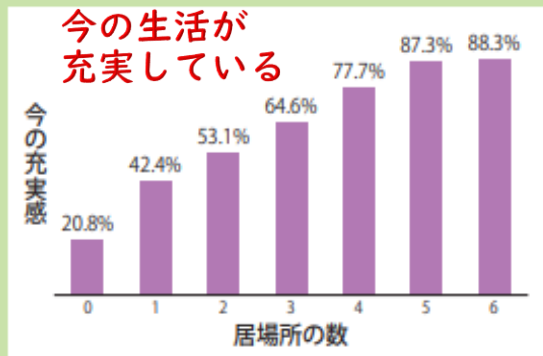
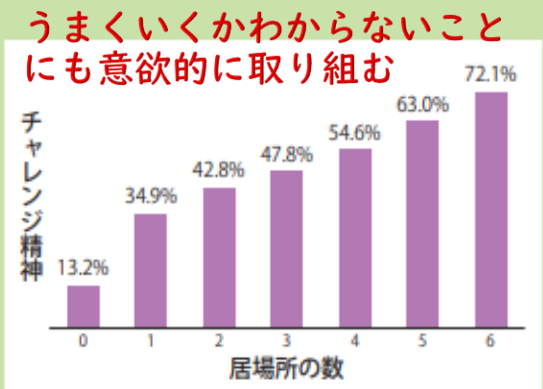
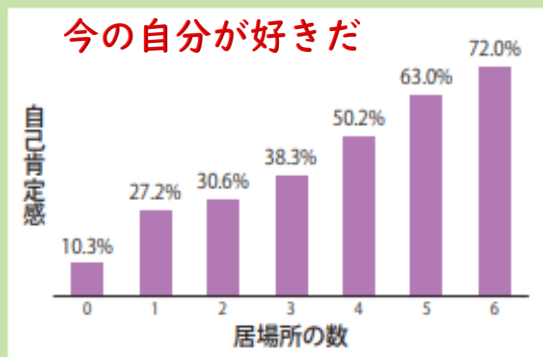
小・中学生の保護者を対象とした 家庭教育に関するアンケート調査

(令和4年／広島県立生涯学習センター)

家庭教育支援の希望内容

ア	親の役割やしつけの仕方などを学ぶ学習会	22.5%
イ	子供との体験や交流を取り入れた学習会	47.2%
ウ	子供の家庭での学習習慣を身に付けさせる場や機会	29.8%
エ	子育て中の親と親しくなれる場や機会	13.1%
オ	地域の人と親しくなれる場や機会	13.5%
カ	身近で気軽に相談できる場や機会	20.0%
キ	多世代で交流できる場や機会	12.6%
ク	子育て経験のある人や専門家に気軽に相談できる場や機会	16.0%
ケ	子育てや家庭教育についての情報	22.9%
コ	子供が安全安心に過ごせる場所	48.2%
サ	子供を預かってくれる場所	11.8%
シ	その他	1.7%
ス	特にない	7.0%

⑥居場所の数と自己認識の関係



⑦相談できる人がいる場の数と自己認識の関係

